

日交研シリーズ A-732

平成 29 年度自主研究プロジェクト

「広域交通網の構造と経済立地に関する研究」

刊行：2018 年 10 月

都市の規模と位置の関係における秩序とその背景メカニズム

The regularity and the underlying mechanism for the size and location patterns of cities

主査：森知也（京都大学経済研究所）

Tomoya Mori

要 旨

本稿では、都市の規模分布と空間パターンについて、既存の理論研究による成果と未解決な問題を整理する。複数の都市の規模と位置について分析を行うためには、必然的に多地域経済を想定することが必要となり、地域間距離を抽象化した、従来の都市・地域経済学において最も一般的な 2 地域モデルや都市システムモデルの枠組からの逸脱を余儀なくされる。本稿では、2 地域モデルとして構築された既存の理論モデルの多地域化を可能にした Akamatsu et al. (2018) に基づき、特に、集積の経済に依拠する都市形成メカニズムについて、その都市規模分布と空間パターンに関するインプリケーションを議論する。

キーワード：都市形成、集積の経済、秩序形成、輸送費

Keywords : City formation, agglomeration economies, regularity formation, transport costs